目　次

はじめに

第Ⅰ部　越境する言語空間

第一章　〈日本〉を背負った平家蟹……鈴木　彰　5
——ラフカディオ・ハーンの「平家蟹」をめぐる小考

1　ヘイケガニという生きもの　5
2　ラフカディオ・ハーンの「平家蟹」　7
3　平家蟹理解の伝播——近世末から明治期へ　14
4　外国人が接した平家蟹——表象としての日本　28
5　平家蟹が背負う〈表情〉——日清・日露戦間期の日本　38

第二章　彼らの忠臣蔵／Chushingura……日高昭二　51
——表象としての〈日本〉

1　「彼ら」の忠臣蔵　51
2　翻訳という問題　57

3 事件としての切腹 60
4 ハラキリと浪人 66
5 忠義と忠誠 72
6 メイスフィールドの*The Faithful* 76

第三章 新聞「日本」第一号を原紙で読む……復本一郎 89
1 新聞「日本」創刊号異聞 89
2 新聞「日本」第一号 94
3 新聞「日本」の広告 98
4 「日本」一面を読む 101
5 おわりに 107

第四章 〈蝶々夫人〉物語とキリスト教……鳥越輝昭 109
1 はじめに 109
2 ロティ 110
3 ロングとベラスコ 115
4 プッチーニ 122
5 おわりに 129

第五章　「マダム」バタフライをこえる試み……山口ヨシ子 133
——ヨネ・ノグチの「ミス」モーニング・グローリー
1　日本人が書いたアメリカ大衆小説　133
2　異人種間結婚を描くということ　142
3　ロマンスをこえる手立てとしてのユーモア　148
4　「新しい女」としての日本女性　153
5　「ゲイシャ」で表象される日本　159
第六章　私を他者化する鏡……村井まや子 173
——アンジェラ・カーターの見た日本
1　楽園へのあこがれ　173
2　記号の国で　174
3　他者の他者としての私　179
4　私を操る私　187
5　日本の思い出　190

第Ⅱ部　生成される歴史の場

第七章　古代日本における異国・異域の表象……前田禎彦
——漢・唐・呉

1　はじめに——中国をめぐる表記——　199
2　中国をめぐる表記・訓　201
3　中国をめぐる表記・訓の歴史的変遷　207
4　東アジアの変動と九・一〇世紀の日本　210
5　おわりに　213

第八章　ケンペル『日本誌』のインパクト……伊坂青司
——近代ヨーロッパにおける〈日本〉表象

1　序　215
2　『廻国奇観』とケンペルの鎖国論　218
3　『日本誌』における日本記述　224
4　『日本誌』のヨーロッパ思想界への影響　231
5　おわりに　236

第九章　ジョージ・サンソムと日本……岡嶋千幸　241
1　はじめに　241
2　サンソムまでの英国日本研究者　243
3　外交官サンソム　247
4　歴史学者　サンソム　255
5　おわりに　263
第十章　『広八日記』のなかの広八像……鈴木修一　273
1　発端　273
2　『広八日記』の問題点　278
3　広八像を求めて　286
4　むすびにかえて　301
あとがき……317
執筆者紹介